

20代の働きマン名鑑

男のなかの男マガジン 月刊 **キング**
magazine making new king

平成19年1月1日発行 第2巻 第1号

第1弾!

3年で辞めたっていいじゃないか!
2007年版 自分に合うスゴい働き方100



川村ゆきえの
妄撮

www.x-king.jp

1 JANUARY 2007
600YEN

すべての
働きマンに
告ぐ!

んなことでもいい。

コレやしたら一番と
自信持つのは
案外カンタン。

だからその気になって

20代の
新・仕事図鑑

瑛太 &
リリースランキー
& 峯田和伸
(銀杏 BOYZ)

山本 KID、
北京への道

ヤングシルクロード
ONのメガネ男子

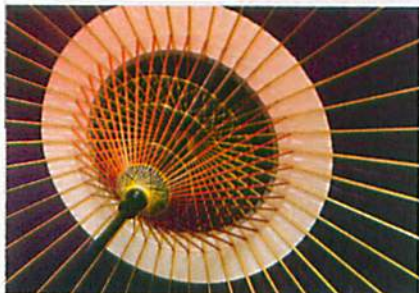
text by Akihiko Shimada (CLIP)
 鳥田昭彦 (CLIP) ●取材、文
 photo by Kaniwa Hioki
 日沖輝彦 ●撮影



株式会社 日吉屋
 西堀耕太郎さん (32歳)

日本の伝統を継ぐ。

「日本文化、伝統文化を世界に伝えることを実感できる」



均等に割った竹の上に、和紙を張っていく。皺が寄らないよう張っていくのが最も難しい。この技を習得するのに、7~8年はかかる。和傘の美しさは傘の裏側に秘められている。放射状の竹に糸飾りを施すのも匠の技のひとつ。

こだわり仕事道具



上/代々受け継がれてきた和傘作りの道具。竹や和紙、天然素材で作られる和傘には、アナログな道具が似合う。竹の骨にのりを塗るハケも、素材の太さによって使い分けるのだ。技を教えてはくれない。下/だから録画したVTRとノートを何回も見直して修練を重ねた。

ニッポンの伝統的産業を世界に向けて発信

「初めて見た京和傘は、なんてカッコいいだろう。こんな素晴らしいモノづくりの文化があるのに、廃業するのはもったいない。ならば僕が継ぎます!」と言って、公務員を辞めて、日吉屋を継いだんです」と話すのは、京和傘の老舗、日吉屋の5代目、西堀耕太郎さん。和歌山の高校を卒業してカナダ留学、帰国したある日、西堀さんは恋をしてしまった。その彼女の実家を訪問した際、偶然にも巡りあったのが京和傘だった。「留学時代、いかに自分が日本文化を知らないかを痛感していたんです。各国の留学仲間に歌舞伎やお茶のことを聞かれても全然答えられない。そんな背景もあって、日本人として、日本文化、伝統文化を世界に伝える仕事に携わりたいなんて思っていたんです」

のちに、彼女と結婚をした西堀さんは、和傘作りの技術を義理の祖母から教わるために、和歌山から京都まで車を5時間走らせる日々が続いた。見て覚えるとはかりに何も教えてくれないので、

VTRに撮って持ち帰り、自宅で何回もテープ見直し試行錯誤を繰り返しながら傘作りの技を覚えたそう。和歌山から移り住み京都で正式に日吉屋を継いで7年。昨年あたりから和傘を両具としてだけでなく、もっと違う使い道はないものかと西堀さんは日々考えていたそう。

「京和傘作りの際に使う竹を細く等分に割ったり、その竹に和紙を貼り付ける匠の技を生かして、何か全く新しい物が作りたい、そこで照明デザイナーと組んで、現代建築に合う和紙照明を作ろうということになって、その第一号がこの秋、完成したんです」

伝統とモダンを融合させる感性、ニッポンを世界に発信する志は、まさに21世紀的な職人だ。



「JUMP」ヴァン・ヘイレン
 [1984] ワーナーミュージックジャパン
 「仕事を始める前にかけて気合を入れます」

西堀さんの24h



KING ハローワーク

株式会社 日吉屋

職種●和傘職人見習い(事務職も募集)
 応募資格●年齢:高卒以上~30歳くらいまで。男女問わず。資格:要普通免許(ペーパードライバー不可。事務職はExcel、Word使用経験、優遇)
 採用地●京都市
 就業時間●9:30~18:30
 休日●月曜定休、月6日休み(隔週で週休2日)、年末年始、お盆休み
 待遇●社会保険完備、通勤手当・住居手当(上限有り)
 求める人材●既成概念に捕らわれず、モノづくりに興味がある方。
 問い合わせ先●株式会社 日吉屋 総務部
 〒602-0072 京都市上京区寺之内通堀川東入百々町546
 ☎075-441-6644 FAX:075-441-6645
 e-mail:info@wagasa.com
 URL: http://www.wagasa.com/